

遺伝研のツバキの現状と再興を目指した取り組み

矢野 弘之（国立遺伝学研究所 技術課）

YANO Hiroyuki : The current status of *Camellia* at the National Institute of Genetics and approach for reviving it

There are about 200 camellia trees planted at the National Institute of Genetics (NIG). Unfortunately, accurate records have not been kept, and the exact cultivar names are unclear. I investigated past annual reports of the NIG and found that it is highly likely that these camellias are “Edo Camellias”, which were developed in the Edo period around Edo, and were introduced from Minagawa Camellia Garden in Angyo, Kawaguchi City, Saitama Prefecture before 1951. I hope to contribute to the preservation of the advanced horticultural culture of the Edo period by properly maintaining and revitalizing these precious “Edo Camellias”. As a first step, I am currently working on assigning individual numbers and identifying the cultivar names. I would like to report on the progress of this work.

1. 背景

国立遺伝学研究所（遺伝研）は、1949年に静岡県三島市に設立された。その構内には、現在約200本のツバキが植えられているが、その来歴の継承を含めた継続的な管理が途切れた時期があるため、品種名ははっきりしていない。遺伝研の設立直後には、サクラを代表とする様々な植物が系統保存を目的として植えられたことがわかっている。そこで、遺伝研の年報や冊子を調査したところ、設立直後の1951年頃には、江戸時代に江戸で作出された江戸椿が既に約130本植えられていたことが分かり¹⁾、現在残っている約200本のツバキにそれらが含まれていると考えられた。

江戸椿は、江戸時代の高度な園芸文化の一端を示す貴重なツバキである。これら遺伝研の江戸椿の品種を同定し、適切な維持・管理を行うことで遺伝研の江戸椿の再興を目指し、遺伝資源の保護や園芸文化の継承に繋げていきたいと考えている。

2. 記録の掘り起こし

遺伝研年報第2号（昭和26年度）（1951年）¹⁾より、昭和26年度には既に江戸椿を含む131種類のツバキが導入されていることと、冊子「遺伝研30周年記念-創設の頃の思い出-」（昭和54年6月）²⁾より、その導入先は埼玉県川口市安行の皆川椿花園であることが示された。

江戸時代に作出された江戸椿は、明治維新の混乱期を迎えて存続が危機的状況となった。そのような中、埼玉県川口市安行の皆川伊左衛門は、江戸の駒込染井で代々植木屋を営んでいた伊藤家から江戸ツバキを集めていたと言われ、ツバキはその子、皆川治助に受け

継がれた。第二次世界大戦中には栽培地の食用畑への転用を命じられたが、園芸家の嘆願が認められ受難を免れた³⁾。以上のように、安行の皆川椿花園は江戸椿の保存に重要な役割を果たした園であり、この園より昭和20年代に導入された一群のツバキは、大変貴重なものである。

3. 個体番号の付与・ラベルの取付け

遺伝研のツバキは、植栽場所から以下の4群に分けられ、合計199本に個体番号を付与した（図1、図2）。

- ① A群 南北中央通り東側を南下し、角で東に向かうL字型の列
- ② B群 車庫横にまとまって植栽された一群
- ③ C群 東側外周に沿う列
- ④ X群 それ以外の場所にあるもの

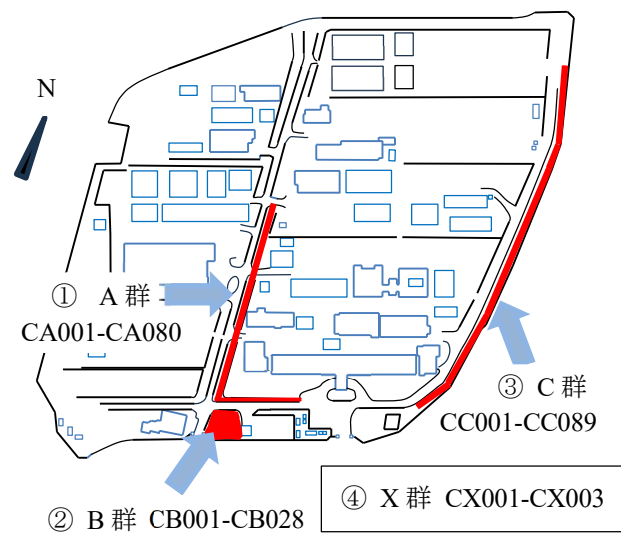


図1. 遺伝研のツバキの植栽場所と付与された個体番号



図 2. ツバキ A 群、B 群、C 群の状況

□ 個体ラベルは、プラスチックカードを利用して自作し⁴⁾、シュロ縄でツバキの枝に結びつけた (図 3)。



図 3. 個体ラベル

4. 花・葉の記録用写真撮影

品種の同定のために、花と葉の写真撮影を行っている。2025 年 2 月で撮影開始後 3 シーズン目となっている。そのうち代表的な花と葉を図 4 に示した。



図 4. これまでに撮影されたツバキの花と葉

A:CA001 (御所車), B:CA003 (春の台), C:CA008 (太神楽),
D:CA018 (乙女椿), E:CA023 (染川), F:CA026 (鹿児島),
G:CA027 (紅侘助), H:CA030 (天の川), I:CA035 (明石渦),
J:CA036 (藻汐), K:CA046 (仏蘭西白), L:CA052 (和歌の浦),
N:CA055 (白露錦), M:CA058 (鴉の羽重), O:CA006 (光源

氏), P:CA067 (雪見車), Q:CB001 (紅唐子), R:CB026 (阿蘭陀紅), S:CA003 (春の台), T:CA008 (太神楽), U:CA027 (紅侘助)

5. 品種の同定

品種の同定を日本ツバキ協会に相談している。これまでに撮影済みの花と葉の写真を送付済みであり、今後適当な時期に観察に来所いただき、同定を進めていく予定である。

謝辞

ツバキの剪定など管理をご指導いただいている樹木医の梅原欣二様に御礼申し上げます。また、日本ツバキ協会の高野末男様には品種の同定に取り掛かっていただいております。感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 国立遺伝学研究所 (1952) 国立遺伝学研究所年報第 2 号 : p.72
- 2) 国立遺伝学研究所 (1979) 遺伝研 30 周年記念—創設の頃の思い出— : p.43
- 3) 大場秀章・秋山忍 (2003) ツバキとサクラ. 岩波書店 171p
- 4) 松永孝治・竹田宣明・福山友博・武津英太郎・栗田学 (2020) 森林育種における QR コードラベルの屋外耐久性実験. 森林総合研究所研究報告 19(3):261-268